

ビットネットの利用

理学部物理学科 鈴木 恒雄

本当かどうかはわかりませんが、学内で一番ビットネットを利用しているとのことで上記の題で感想や問題点を書くと編集委員の方に頼まれ、苦手で大嫌いにもかかわらず書いています。たぶん本当は学内で一番ビットネットやその他で計算センターの車古さん達に文句を言って迷惑をかけているので「一ついじめてやれ」ということになったのではと思っています。

ともかくご存知のようにビットネットは大学や研究所間のコンピューターを専用回線で接続し、学術情報に関する非営利な通信を目的とするコンピューター・ネットワークであり1981年にアメリカで始まりました。私がビットネットを京大の研究仲間から知ってはじめて使いたかったのは5年ほど前のことで、たしか同じ物理学科の樋渡さんとともに一番近くにあるノードの金沢工業大学の計算センターに登録させてもらったのが始まりです。しかし電話回線で接続せざるを得ず、また向こうはIBM機なのでエミュレーターを買わざるを得ず、・・・で私は結局何も使わずにその時は終わりました。その後京大のセンターで使えるようになり文献検索など国内の通信に使い始めましたが始めはライン・エディターで使いにくいものでした。

国際的な通信など本格的に使いだしたのは、まだここ2年ほどのことです。この頃では毎日一回はのぞいてたいへん便利に利用しています。junetなど多くのネットワークとも接続しており、信頼性はかなり高く、これまでアメリカ、デンマーク、スイス、オランダ、ドイツ、イタリア、などと通信をしていますが、今のところ送る方はトラブルにはあっていません。私の研究分野は、週間雑誌と年間7000以上の雑誌に載る前のプレプリントが研究情報の交換の中心というとてもスピードのはやい分野ですので、一週間以上もかかる手紙のやりとりなどとてもまどろこしかったのですが、いまでは相手も端末をのぞいておればほとんど瞬時に交流できます。この頃では論文にE-Mail（種々のネットワークをまとめてこうよんでいる）のアドレスをのせるのがみられるようになってきており、国際会議の参加者リストでもE-Mailのアドレスリストが必ず配付されます。国際会議の参加登録も今ではこれのできるようになり、ホテルや飛行機の便の変更などの緊急の連絡もすぐにできてたいへん便利になっています。遠くない将来に論文もE-Mailで送るようになるでしょう。

私の現在の日常的な利用形態は、外国とは関連した研究仲間との研究連絡やお互いの意見の交換、お互いの訪問日程の調整、論文の投稿後の編集者とのやりとり、国際会議の参加登録、さまざまな共同プロジェクトの企画の連絡、自分が外国出張したときの出張先からの研究室との連絡、スイスに出張している研究室の助手との研究連絡や日本やヨーロッパのニュースの交換、人事その他の問題の交換などで手紙はよほどフォーマルな時以外は使わなくなっています。国内では、広島大学の共同研究者との研究連絡以外に全国共同利用の京大の基礎物理研究所から毎週一回プレプリントの全世界共通

のデータベースサービスを受け研究室のハードディスクに落としており、また人事公募、国際会議、各種研究会、セミナー、外国人のビジターなどの案内を受けたり、データベース検索をしたり、筑波の高エネルギー研究所のスーパーコンピューターでとったデータを送ったり、プログラムのファイルのやりとりなどを行っています。ともかくE-Mailと少量のデータやグラフなどをやりとりするFAXはいまや研究室の必需品です。これらのおかげで、地方大学にいる情報面のハンディの大半は無くなりました。

しかしこのたいへん便利なビットネットも金沢大学のセンターに移植されているものは、他大学のものと比較すると全般に使いやすいですが、現在のところ欠陥があります。Mailがよく受取の方で誤配されます。私あてのメールが違うところに入ったのも何回かありますが、人のメールが迷い込んだのが大変に多くそれで何度も車古さんに連絡したりしたのですが、どうも金沢大学に移植した富士通用に書き直したソフトが融通がきかないらしくて、アドレスの書き方が少しずれているとどこに入っても良いかわからなくなって、その時開いていたり直前に開いている端末のアドレスに入ってしまうのだそうです。この点はなんとしてもきっちりしてもらわないと信書の秘密が守れないし、誤配を受けた方がめんどろなので消してしまったりすることも考えられるので大変困ります。もう一つ困るのは、原則として24時間サービスのはずですが、たとえば夏休みなどは金沢工大にぶら下がっているため、工大が10日間以上も休むという信じられないことになるとその期間通信できないし、金沢大学のセンター自身も夜間に止めるときが多くてその間は連絡できないことです。

私の研究室ではこれらの問題の解決になることも期待して、ワークステーションを近く導入してjunetやinternetの通信システムに参加していこうと考えています。internetは外国から自分の研究室の端末にloginできるので出張したときなど大変便利なので期待しています。しかしこのような個人的な解決でなく金沢大のビットネットシステム自身の上記の問題を速く解決してもらいたいと願っています。またこれまで使ったことの無い人はどんどん利用してほしいと思います。せっかくセンターの方で工大との接続で約40万円ほども負担して維持しているのですから使わないのはまったく無駄です。研究を活発にしている人、しようと考えている人は地方大学のハンディを大なり小なり感じてきたと思いますが、E-Mailはこのハンディの克服に大いに役立つと思います。今後飛躍的に利用者が伸び、金沢大学での研究が世界に飛躍していくことを期待して雑文を終わります。